

## 東京・明治神宮外苑

全会議室(18室)ブロードバンド対応!



- 宿泊 81室(和40・洋29・和洋12)400名
- 会議・研修 大ホール(1,360席)、他18室
- 婚礼・宴会



〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7-1  
 TEL:03-3401-0101 FAX:03-3404-0611  
<http://www.nippon-seinenkan.or.jp>  
 E-mail:hotel@nippon-seinenkan.or.jp

日本青年館  
ホテル

## 富士山麓・山中湖畔1,000mの別天地



- 宿泊 61室(和29・洋30・和洋2)330名
- 会議・研修 10室(18~150名)
- その他 大浴場、中国菜館「湖林」、体育館、野外炊飯場、駐車場完備



〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘  
 TEL:0555-62-0020 FAX:0555-62-4460  
<http://www.nippon-seinenkan.or.jp>  
 E-mail:seikei@nippon-seinenkan.or.jp

山中湖畔荘  
ホテル清溪



この国の佳き伝統とともに

株式会社 宮本卯之助商店  
 創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売  
 西浅草店 〒111-0035 東京都台東区西浅草2-1-1  
 tel.03-3844-2141 fax.03-3842-6730  
[www.miyamoto-unosuke.co.jp](http://www.miyamoto-unosuke.co.jp)

日本財団 The Nippon Foundation

# 第14回 全国 こども 民俗芸能大会

「東日本大震災 郷土芸能復興支援プロジェクト」事業

2012. 8.18 [土] 日本青年館大ホール  
 13:30開場 14:00開演 新宿区霞ヶ丘町7番1号(神宮外苑)

公益社団法人 全日本郷土芸能協会  
 〒107-0052 東京都港区赤坂 6-7-14-102  
 TEL. 03-3583-8290 E-mail. info@jfpaa.jp Web. <http://www.jfpaa.jp/>  
 Blog. <http://blog.canpan.info/jfpaa/> Twitter. @jfpaa

第9回 伝統文化 研修セミナー 2012

8月18日[土]/19日[日]  
 主催 公益社団法人 全日本郷土芸能協会  
 後援 文部科学省、中華人民共和国駐日本国大使館文化部、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、福島県教育委員会、東京都教育委員会、愛知県教育委員会、広島県教育委員会、熊本県教育委員会、全国民俗芸能保存振興市町村連盟、(公財)伝統文化活性化国民協会、(財)日本青年館、日本青年団協議会、(株)教育新聞社  
 助成 日本財団





公益社団法人 全日本郷土芸能協会  
理事長 中嶋 春洋

14回目を迎える今回の「全国こども民俗芸能大会」は当協会の「東日本大震災郷土芸能復興プロジェクト」事業の一環として開催致します。今年は従来の当協会の会員枠2団体を復興支援枠として、都道府県教育委員会の推薦団体の中から被災地であります岩手県と宮城県の2団体を選考致しました。改めまして東日本大震災で被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を祈念申し上げます。また、本大会では引き続き「東日本大震災郷土芸能復興支援プロジェクト」の一環として、被災された郷土芸能に携わる子どもたちへの支援の募金も行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この大会は、我が国の大切な文化遺産である民俗芸能の保存振興と後継者育成の一助となることを目的として開催してまいりました。今回の東日本大震災では祭りや民俗芸能が真先に復興し、大変話題になっております。それは祭りや民俗芸能が我が国の大切な文化遺産であるとともに、地域の生活に根差したものであり、先人たちが繋がりつづけてきた、生きていくために必要な知恵がそこにあるからだと感じます。もちろん子どもたちにとっても地域の民俗芸能に触れることで、仲間たちとの交流や大人との世代間交流の中で、とても大切なことが育まれていきます。併催いたします伝統文化研修セミナーは、学校や地域で民俗芸能に取り組む子どもたちの事例発表を通して、学校教育と地域社会における民俗芸能の伝承活動とのかかわり方などを探るセミナーです。今年のセミナーは「地域再生の基礎 民俗芸能を支えるこどもたち」をテーマに開催されます。事例発表は東日本大震災で甚大な被害を受けた、地域で伝承活動に取り組む3例を取り上げます。地域再生に欠かせない民俗芸能の役割、それを支える子どもたちがテーマとなるパネルディスカッションにも大いに期待するところです。

今年も都道府県教育委員会から多くの参加希望団体の推薦を頂きました。選考委員会を経て選ばれた7団体は、どの芸能もそれぞれの郷土で育まれた特色あるものです。また、加えて在日の海外団体として「中国獅子舞」を横浜山手中華学校舞獅隊の皆さんに披露していただきます。国際文化交流事業として子どもたちの国際相互理解の促進に寄与するものです。子どもたちは郷土の誇りを胸に日頃の成果を大いに発揮してくれることでしょう。

最後になりましたが、文部科学省をはじめ後援を頂きました各関係団体、助成を頂きました日本財団、そして日々練習を重ねてきた子どもたちとそのご家族、出演団体関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

## ごあいさつ

出演団体選考委員会  
委員長 宇野 小四郎



東日本大震災から二度目の夏となりました。

本大会は、ご案内にありますように「東日本大震災郷土芸能復興支援プロジェクト」事業の一環でもあります。今回は、復興支援枠として二箇所、岩手県「菅窪鹿踊」、宮城県「塩竈神楽」をお呼びしました。そして北海道・東北ブロックからは福島県「大倉の太々神楽」を、関東ブロックからは東京都の「川野の車人形」を、近畿・東海・北陸ブロックからは愛知県「豊田市猿投の棒の手」を、中国・四国ブロックからは広島県の「比婆荒神神楽」を、九州・沖縄ブロックからは熊本県の「植柳盆踊り」をそれぞれお呼びしました。又在日海外団体として中華人民共和国の「中国獅子舞」を横浜山手中華学校舞獅隊に演じていただきます。

以上のように復興の意志に燃える被災地の2団体と全国5ブロックの代表、および中国の獅子舞の8団体は、ふるさとの文化と歴史が培ってきた芸能を、一生懸命習得してきた成果を今日の日本青年館の舞台上で披露してくれます。

又本大会に併せて18日、19日の両日にこれも「東日本大震災郷土芸能復興プロジェクト」事業の一環として「第9回伝統文化研修セミナー」が「地域再生の基礎 民俗芸能を支えるこどもたち」というテーマで行われ、芳賀日出男氏の基調講演は「こどものまつり 春夏秋冬・正月～郷土芸能の力と喜び～」と題するお話です。そして被災地の3県より復興活動の事例が報告され引き続き地域再生と民俗芸能を支えるこどもたちについてパネルディスカッションが行われます。この機会に多くの方のご参加をおすすめします。

現在、震災からの復興の声は衰えてはおりませんが、阪神淡路大震災に比して巨大な津波が広範囲を襲ったこと、加えて原発事故で思ってもいなかった被害を受けたことなど、難しい問題に立ち向かう最中、世界的な経済の低迷を迎えて、社会が今一つ活気が無い現状です。しかし一方では、地域の復興には心の豊かさを求め、祭りや民俗芸能への関心が高まり、その行動が各地に見られます。昔二人の長者が宝比べをしたとき、一人の長者が珍しい豪華な宝を次々と見せると、もう一人の長者はこどもたちを呼んで「これが私の宝です」と言った話と同じで、今の日本にとって一番の宝はこどもたちではないでしょうか。その宝たちが演じてくれる数々の民俗芸能をたっぷり楽しんで、幸せを感じて頂けるなら嬉しい限りです。

### 出演団体 選考委員会

委員長	宇野 小四郎	(公財)現代人形劇センター顧問
委員	掛谷 昇治	(財)日本青年館公益事業部
委員	城井 智子	(公社)全日本郷土芸能協会専務理事
委員	久保田 裕道	國學院大学兼任講師
委員	小島 美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	芳賀日出男	写真家
委員	星野 紘	東京文化財研究所名誉研究員

# 第14回 全国こども民俗芸能大会

## プログラム

- 第一景 おおくら だいだい かぐら しのもゝい  
大倉の太々神楽「志能夫の舞」
- 第二景 とよた しき なげ ぼう て ぼう て  
豊田市猿投の棒の手「棒の手」
- 第三景 うやなぎぼん おど うやなぎぼんおど  
植柳盆踊り「植柳盆踊り」
- 第四景 しおがほ かぐら たいつ むい  
塩竈神楽「鯛釣り舞」
- 休憩
- 第五景 かわの くるまにんぎょう ひょうが かげきよいち だいき ごく やや だん  
川野の車人形「日向景清一代記 獄舎破りの段」
- 第六景 ひ ぼ こう じん かぐら きょく むい さかさ むい さる たりに むい  
比婆荒神神楽「曲舞」「榊舞」「猿田彦の舞」
- 第七景 ちゅうごく し し まい ちゅうごく し し まい  
中国獅子舞「中国獅子舞」
- 第八景 すげのくぼ しし おどり すげのくぼししおどり  
菅窪鹿踊「菅窪鹿踊」

司会 斎藤みどり

## 第9回 伝統文化 研修セミナー 2012

地域再生の基礎  
民俗芸能を支えるこどもたち

1日目 8月18日[土]

日本青年館・大ホール 11:00 開会  
「第14回全国こども民俗芸能大会」舞台稽古見学と公演鑑賞

2日目 8月19日[日]

日本青年館・中ホール 13:00 開会

◆基調講演  
「こどものまつり 春夏秋冬・正月～郷土芸能の力と喜び～」  
講師 芳賀日出男(写真家)

◆事例発表①「菅窪鹿踊」 岩手県下閉伊郡田野畑村  
田野畑村立田野畑小学校 校長 早川幸男

事例発表②「田代島獅子舞」 宮城県石巻市  
石巻市田代島獅子舞保存会 会長 尾形勝壽

事例発表③「請戸の田植踊」 福島県双葉郡浪江町  
請戸芸能保存会 副会長 佐々木繁子

◆パネルディスカッション  
「地域再生の基礎 民俗芸能を支えるこどもたち」

- ◇コーディネーター  
小島 美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- ◇パネラー(予定)  
久保田裕道(國學院大学兼任講師)  
小谷 竜介(宮城県教育委員会文化財保護課保存活用班技術主査)  
田村 学(国立教育政策研究所教育課程調査官)  
星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)



# 第14回 全国 こども 民俗芸能大会

「東日本大震災  
郷土芸能復興支援  
プロジェクト」  
事業



## 出演団体紹介

北海道・東北ブロック【岩手県田野畑村】復興支援枠

■「菅窪鹿踊」菅窪鹿踊保存会・田野畑村立田野畑小学校踊組

東北の太平洋岸に位置する岩手県田野畑村の菅窪地区に伝わる「菅窪鹿踊」は、その昔武甕槌の尊(たけみかづちのみこと)が国造りの最中に鹿に助けられて、その御礼のために踊った「鹿島鹿踊」の流れをくむものと言われています。建久2年(1191)武蔵の国秩父の庄島山一族が、源頼朝の命によって蝦夷に備えるため田野畑村に入った際に「鹿島鹿踊」を習い伝えたと言われています。田野畑小学校の児童は昭和54年(1979)から「菅窪鹿踊」に取り組んでおり、これまで運動会、学習発表会、卒業にあたっての引継式など発表の場を広げ、村内外の大会に出場するなど継続した活動を続けています。

東日本大震災では、田野畑村でも多くの家屋が流され、尊い家族の命が犠牲となりました。全国からの温かい人々の支援に感謝しながら、元気に活動を続けている事を精一杯踊って見せたいと思います。

高山眺 嶽形達 熊谷宏生 佐藤俊介 上山祐那 佐藤弥羽 佐藤豊樹 佐藤永宙  
中里保 関口愛 小野寺彩香 熊谷有希子 小澤佳乃 佐々木万里菜  
高山葵 橋本紗奈 高山結



北海道・東北ブロック【宮城県塩竈市】復興支援枠

■「塩竈神楽」塩竈市立第三小学校郷土芸能クラブ

「塩竈神楽」は、古くは延文5年(1360年)の塩竈神社の神馬献上の祈願状にその記録が残りますが、現在の芸能は大正後期から昭和にかけて確立されたもので、出雲流神楽と、伊勢神宮の流れを汲む太神楽の演目を伝承している民俗芸能で、塩竈神社例祭のとき、演奏奉納が行われています。第三小学校郷土芸能クラブは、平成13年度に塩竈神楽の「鯛釣り舞」を披露するクラブとして始まりました。当時の3年生が総合的な学習の時間の中で体験的な取り組みの一つとして取り上げ、それをきっかけとしてクラブ活動で行いたいという児童がいて、クラブが発足しました。塩竈神楽保存会の方々にご指導をお願いしています。3年生から6年生まで、毎年20名前後で活動しています。発表の場は毎年決まっていますが、7月下旬の「戦ヶ崎神社」、8月中旬の「杏友園祭り」、12月上旬の「市民芸能祭」の3回です。

戸松俊輔 佐藤代伍 佐藤一虎 堀内海里 小山結衣 戸松咲冬実 菊地涼  
海谷美里 福島梓 栗野まりあ 中田共



北海道・東北ブロック【福島県田村市】

■「大倉の太々神楽」大倉太々神楽保存会



「大倉の太々神楽」は、出雲流神楽の一つで、古事記や日本書紀などの神話を題材として面をつけて舞う神能といわれる舞と、主として神を招き清めるための幣束や剣などを持って素面で舞う採物舞を合わせて36座で構成され、神能を大神楽、採物舞を小神楽と呼び30種類の舞を伝えています。一つの舞は、基本的に「平舞」と「かかり」の2種類で構成されます。福島県田村地方には300年ほど前から神楽が伝えられていたといわれ、当時の神職神楽の流れをよく伝えております。今回発表する「志能夫の舞」は、鈴と幣束を持って舞う採物舞で神が鎮座する場所を清める舞です。この舞の特徴は、一つの舞に笛が三種類あることです。「乱調の舞」、「風車の舞」、「左右の舞」の三つの笛に合わせて舞います。子どもたちの神楽は、平成4年から中学生を対象に始まりましたが、現在は小学校4年生以上で練習しています。

佐久間千秋 橋本悠矢 佐藤翼 諸根優汰 佐藤怜 諸根琴琴 佐藤直哉 村越直人  
橋本結孝 村越堅樹 橋本宇未 村越千聖

関東ブロック【東京都奥多摩町】

■「川野の車人形」川野車人形保存会

川野の車人形は、小河内ダムの湖底に没した旧小河内村の川野地区に古くから伝わる郷土芸能で、人形芝居から発展したものとされています。3輪舟形の「ロクロ」と呼ばれる箱車に人形遣いが黒衣を着て乗り、手足を巧みに使い、浄瑠璃の語りに合わせて人形を操るものです。もとは素朴な人形遣いから始まり、はじめは一つの人形を二人がかりで操る技法が伝えられていましたが、120年くらい前に現在の形になったとされています。演目は「日向景清一代記」、「佐倉宗五郎」などで、浄瑠璃本も三十段ほど残されています。以前は大人だけで演じられていましたが、過疎化や高齢化による後継者不足から、地域の子供たちにも参加していただき、祭礼や今回のような公開が近付くと、大人、子供が一緒になり練習に励んでいます。

坂村恵太 森川晟登 古屋喬平 酒井恵介 古屋華子 酒井慎之介 佐藤和歌乃  
清原志歩 本沢希奈 酒井あかね 坂村優 古屋賢司 古屋真司



近畿・東海・北陸ブロック【愛知県豊田市】

■「豊田市猿投の棒の手」四郷地区棒の手保存会

およそ460年前、戦国時代に足輕(農民兵)は戦の中で身を守るため武術を習い会得したのが始まりです。江戸時代になると「棒の手」はワザを男踊りの形に変え、「オマント」と呼ばれる行事-村人が村の表札を馬の鞍に立て、五穀豊穡を祈り、侍大将は馬印を立て武運長久を祈り神社仏閣へ献上金、米、塩、酒などを奉納する行事-の警固隊として神社仏閣で披露する演技、奉納する演技として変化していきました。特に熱田神宮、龍泉寺、猿投神社でお上(幕府)から奉納が許されたことで全国に類の無い、農民武芸が「変遷を繰り返しながら現代まで伝わってきました。四郷地区棒の手保存会は5自治区で三流派「鎌田流」「藤牧藤流」「見当流」を継承し会員数も多く、多彩な演目があり、愛知県下でも数々の「棒の手」処となりました。今回は子どもに合った棒や小太刀、長刀等の演技を披露します。

湯地和華 高橋沙希 市井来輝 高畑光 森光希 渡辺太一 木村仁紀 西森福次郎  
磯谷仁 大山裕貴 森大貴 安藤晃将 梅村騎士 都築晃太





## 中国・四国ブロック【広島県庄原市】 「比婆荒神神楽」

比婆荒神神楽子ども神楽塾

庄原市東城町と西城町の一円で中世の名残とみられる「名(みょう)」と呼ばれる小共同体が残っており、「名」の信仰の中心が本山三宝荒神(もとやまさんぼうこうじん)です。「比婆荒神神楽」は、本山三宝荒神に奉納される祖霊信仰の神楽で、鎮魂の要素を残しているのが特色といわれ、特に託宣(神がかり)の神事を伝えていることは全国でも貴重なものです。中世以来の形式を残し、毎年行われる小神楽とともに、式年(13年目、33年目)の大神楽は、盛大に厳粛に行ってきました。平成13年8月25日「比婆荒神神楽東城後援会」を設立し、子ども神楽塾の支援体制を確立しました。現在月2回(第2、第4土曜日)比婆荒神神楽社の社中の方から指導を受けています。演目は、七座神事の中の神楽の基本舞として「曲舞(きょまい)」。優雅な「榊舞(さかさまい)」。天孫降臨の際に、先導した猿田彦による舞舞「猿田彦の舞」を演じます。

萩原健司 松永一佳里 森山由理 重藤大基 曲淵克季 和田尚樹 谷航希 岩田知弥 佐伯宏光 田中碧 小坂幸士 坂陽輝 小谷海平

# 全国こども民俗芸能大会出演団体

## 平成11年度(1999年)第1回こども民俗芸能大会 『キッズ21～お祭りわっしょい』

「貫井囃子」 貫井囃子保存会(東京都小金井市)  
「獅子舞」 田名八幡宮獅子舞保存会(神奈川県相模原市)  
「エイサー・獅子舞」 琉球国祭り太鼓東京支部(東京都杉並区)  
「高円寺阿波踊り」 東京飛鳥連(東京都杉並区)  
「チャッキラコ」 ちゃっさくら保存会(神奈川県三浦市)

## 平成12年度(2000年)第2回こども民俗芸能大会 『こどもたちの舞い・踊り』

「雅楽」 瑞穂雅楽会(東京都葛飾区)  
「阿波踊り」 経堂もろさき連(東京都世田谷区)  
「獅子舞」 大島東明獅子舞保存会(神奈川県相模原市)  
「和太鼓」 相模原王太鼓保存会少年部(神奈川県相模原市)

## 平成13年度(2001年)第3回こども民俗芸能大会 『こどもからこどもへ～伝え継がれた神楽と踊り』

「船屋踊り」 長井町船屋踊り保存会(神奈川県横須賀市)  
「本海香楽」 猿倉香楽保存会(秋田県島崎町)  
「石見神代神楽」 上存子供神楽団(高知県高岡市)  
「荒馬踊り」 世田谷リズムの会(東京都世田谷区)

## 平成14年度(2002年)第4回全国こども民俗芸能大会 『北から南から選抜された芸能大集合～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「下北の能舞」 白糠子ども会(青森県東通村)  
関東ブロック 「猿子踊り」 賀茂村宇久須楽区子供会(静岡県賀茂村)  
東京都 「稲付の餅揚げ」 稲付千本餅餅屋・餅揚げ保存会(東京都北区)  
近畿・東海・北陸ブロック 「いなな太鼓」 太地町民衆保存会こども民衆保存会(静岡県太地町)  
中国・四国ブロック 「山川町神代御宝踊」 神代御宝踊保存会(徳島県山田町)  
九州・沖縄ブロック 「荷川取のクイチャー」 荷川取子ども会(沖縄県平良市)

## 平成15年度(2003年)第5回全国こども民俗芸能大会 『未来へ受け継がれるふるさとの芸能大集合～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「廿一田植踊」 廿一田植踊保存会(宮城県気仙沼市)  
関東ブロック 「今田人形」 竜崎中学校今田人形座(長野県飯田市)  
東京都 「仲若囃子」 仲若囃子連(東京都板橋区)  
近畿・東海・北陸ブロック 「天神祭りの獅子舞」 本郷子供会(岐阜県上宝村)  
中国・四国ブロック 「伊予万歳」 伊予万歳舞会(愛媛県北条市)  
九州・沖縄ブロック 「庄内神楽」 庄内子供神楽愛好会(大分県庄内町)

## 平成16年度(2004年)第6回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「根反鹿踊り」 一戸南小学校根反鹿踊り伝承クラブ(岩手県一戸町)  
関東ブロック 「鶯流狂言」 佐渡市立真野中学校(新潟県佐渡市)  
東京都 「江戸祭り囃子」 神田流神明囃子保存会(東京都板橋区)  
近畿・東海・北陸ブロック 「塩津の籠踊り」 塩津いなり踊り保存会(和歌山県下津町)  
中国・四国ブロック 「石見神楽」 有福子供神楽社中(高知県高岡市)  
九州・沖縄ブロック 「石垣川平の結願祭」 川平伝統芸能保存会(沖縄県石垣市)

## 平成17年度(2005年)第7回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「黒川能」 御引町立御引東小学校(山形県御引町)  
関東ブロック 「与板民謡」 与板民謡ちばな会(新潟県与板町)  
東京都 「広大寺」 柳尾市立中野小学校(新潟県柳尾市)  
近畿・東海・北陸ブロック 「唐人踊」 子ども唐人・唐人踊を継ぐ会(三重県津市)  
中国・四国ブロック 「有田神楽」 有田こども神楽団(広島県広島市)  
九州・沖縄ブロック 「釜ヶ原神楽」 北門こども神楽(山口県美和町)  
「滑石電踊」 滑石電踊保存会子供電踊(長崎県長崎市)

## 平成18年度(2006年)第8回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「鶏舞」 沢田鶏舞保存会(青森県十和田市)  
関東ブロック 「利根地固め唄」 利根地固め唄保存会(茨城県利根町)  
東京都 「八王子車人形」 八王子市立由井中学校三味線部(東京都八王子市)  
近畿・東海・北陸ブロック 「御殿万歳」 山添御殿万歳こども教室(奈良県山添村)  
中国・四国ブロック 「懸獅子舞・せりせり」 中ノ郷伝統芸能くらぶ(高知県高岡市)  
「石見大元神楽」 市木根尾子ども神楽団(高知県高岡市)  
九州・沖縄ブロック 「伊倉仁〇加」 伊倉仁〇加保存会(熊本県玉名市)  
在日の海外団体 「インドネシアの芸能」 東京インドネシア共和国学校(東京都墨田区)

## 平成19年度(2007年)第9回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界～親子でたのしむこどものまつり～』

北海道・東北ブロック 「松前神楽」 神恵内松前神楽保存会(北海道神恵内町)  
「鹿子躍・鶏舞」 一関市立舞川小学校(岩手県一関市)  
関東ブロック 「滝沢の放歌踊り」 浜松市立都田中学校(静岡県浜松市)  
東京都 「江戸の祭り囃子」 戸塚囃子保存会(東京都新宿区)  
近畿・東海・北陸ブロック 「御殿万歳」 西尾市立西野町小学校御殿万歳クラブ(愛知県西尾市)  
中国・四国ブロック 「御調神楽」 尾道市立上川小学校子ども神楽教室(広島県尾道市)  
九州・沖縄ブロック 「鳥唄・六調」 天城子宝六調バンド(鹿児島県天城町)  
在日の海外団体 「インドの伝統芸能」 コンテンポラリー・ナチャム・カンパニー(東京都練馬区)

## 平成20年度(2008年)第10回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック 「南部駒踊」 高館駒踊保存会(青森県八戸市)  
「いなりっこ」 三浦いなりっこ保存会(神奈川県三浦市)  
関東ブロック 「小田原囃子」 小田原囃子多古保存会(神奈川県小田原市)  
近畿・東海・北陸ブロック 「氷見網起し木遣り」 氷見網起し木遣り保存会子供会(富山県氷見市)  
「曾爾の獅子舞」 曾爾村立曾爾中学校(奈良県曾爾村)  
中国・四国ブロック 「石見神楽」 高津神楽社中子ども神楽部(高知県高岡市)  
九州・沖縄ブロック 「沖繩水天宮舞臺囃子」 舟舞台囃子保存会(福岡県柳川市)  
在日の海外団体 「ペルーの民族舞踊」 日本・ペルー文化実行委員会(滋賀県大津市)

## 平成21年度(2009年)第11回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック 「秋保の田植踊」 湯元の田植踊保存会(宮城県仙台市)  
関東ブロック 「徳山の盆踊」 川根本町徳山古典芸能保存会(静岡県川根本町)  
近畿・東海・北陸ブロック 「京都の六斎念仏」 京都市立光徳小学校六斎クラブ(京都府京都市)  
中国・四国ブロック 「淀江さんご節」 宇田川青少年育成会郷土芸能部(鳥取県赤松市)  
九州・沖縄ブロック 「古三津の虎舞」 古三津子ども虎舞保存会(愛媛県松山市)  
在日の海外団体 「御調神楽」 清川子ども神楽保存会(大分県豊後大野市)  
海外からの招請団体 「韓国の伝統芸能」 金美福舞踊研究所(東京都荒川区)  
「スリランカの伝統舞踊」 キャンディ・トラディショナル・ダンス・グループ(スリランカ民主主義共産党)

## 平成22年度(2010年)第12回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック 「荒巻香楽」 秋田県 荒巻香楽保存会(秋田県秋田市)  
関東ブロック 「沼田祇園囃子」 群馬県 沼田祇園囃子保存会連合会(群馬県沼田市)  
「小栗山の獅子舞」 新潟県 小栗山不動院獅子舞保存会(新潟県見野市)  
近畿・東海・北陸ブロック 「信濃州の屋台獅子」 長野県 龍中平獅子舞保存会(長野県飯田市)  
九州・沖縄ブロック 「射和祇園祭囃子」 三重県 射和祇園祭囃子保存会(三重県松阪市)  
海外団体 「備中神楽」 岡山県 成羽備中神楽育成会(岡山県高梁市)  
「青島白太鼓踊り」 宮崎県 青島白太鼓踊り保存会(宮崎県宮崎市)  
「南インドの伝統舞踊」 インド ナタナカシキ舞踊研究所(インド共和国)～モヒニヤタム

## 平成23年度(2011年)第13回全国こども民俗芸能大会 『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック 「晴山獅子舞」 晴山獅子舞保存会(青森県十和田市)  
「鬼柳鬼剣舞」 鬼柳鬼剣舞保存会(岩手県北上市)  
関東ブロック 「千本木龍頭神舞」 千本木龍頭神舞保存会(群馬県伊勢崎市)  
近畿・東海・北陸ブロック 「敷地天神様の舞」 敷地天神様の舞保存会(石川県加賀市)  
中国・四国ブロック 「葛畑農村歌伎舞」 せきのみや子ども歌伎舞クラブ(兵庫県養父市)  
九州・沖縄ブロック 「佐喜浜にわか」 佐喜浜古式行事保存会子ども儀部会(高知県室戸市)  
海外団体 「対馬鹿野の盆(盆の盆)」 鹿野上芸能保存会(長崎県対馬市)  
「ウリチ民族の伝統舞踊」 ウリチ民族芸能団「ホスタ」(ロシア連邦)

## 九州・沖縄ブロック【熊本県八代市】 「植柳盆踊り」 植柳盆踊り保存会

「植柳盆踊り」は、いつ始まったかは不明で江戸時代初期、八代城主細川忠興公の頃盛んになったと伝えられています。昔から植柳神社境内で盂蘭盆に伝承されてきたこの盆踊りは、念仏踊りで特に女踊りは京舞風な緩やかで止まりの無い振りに独特な叙情表現があります。指先の動きが独特で植柳生まれの者でないと踊れないとも言われます。「肥後八代植柳村の盆の踊の由来を聞く」と始まり、植柳の男女の心中物「折助・おすて」の口説きと踊り手のはやしだけで踊られます。衣裳は白装束に黒覆面と座頭笠で顔を隠している出立から「亡者踊り」とも呼ばれています。現在は、植柳神社の夏と秋の例祭での奉納と、お盆の8月14日は植柳小学校で踊り、その後初盆を迎えた家の庭、もしくは座敷で踊られています。植柳小学校の運動会では全校児童と地区の皆さんとで踊ります。

安藤佑真 吉村将輝 上村和歌子 花岡紅葉 安藤愛菜 江口拓真 星田真夕 山口琴実 西慈海 山口舞桜 江口佳子 宮脇杏奈



## 在日海外団体【中華人民共和国】

## 「中国獅子舞」 横浜山中中華学校舞獅隊



元来中国に生息していない獅子は、昔から龍・虎・亀・蛇ほど中国人の文化や生活に密着しておらず神扱いにもされていません。しかし一部の地域では獅子は神に忠実に仕える勇猛な聖獣として親しまれ、獅子のように舞う民間舞踊が邪気を払い幸福をもたらすと信じられ、「中国獅子舞」は中国各地に浸透して行き、祝い事で舞われてきました。現在、舞獅隊の隊員は小中学生合わせて35名余り在籍しています。主な活動は、本校にきた来賓の出迎えの舞や各種校内行事、校外では校友生との合同で中華街でのイベントなど、意欲的に参加しています。最近では槽の上で演技をする難易度の高い技もこなすようになりました。先人が世代を重ね、残してくれた伝統文化の「中国獅子舞」を守りつつ、時代の流れに合わせてより一層躍進しながら、「次世代」に継承できるクラブとして活動しています。

樺大樹 戸川慶希 黄卓源 藤江林聖 米田真生 高山浩一 王允誠 謝優華 小林遼児 大矢天聖 陳健太 陳星俊 富田正勝 肖浩華 戸川龍哉 孔徳軒

制作	(公社)全日本郷土芸能協会 森下春夫 小岩秀太郎 西田昌代
記録映像	(株)ホール 松井 聡
記録写真	松井 聡
宣伝美術	松岡拓也(江戸クリエイト(株))
舞台進行	今井元紀 鈴木知実
舞台監督	高崎秀秀 賢持真一
音響	井上寛文
照明	齊藤正雄
構成・演出	(公社)全日本郷土芸能協会
スタッフ	